



**高野山開創1200年記念
高野山の名宝**
Koyasan 1200th Anniversary
Treasures of the Sacred Mountain

2014年
10月11日(土) 東京
→ 12月7日(日)

サントリー美術館

2015年
1月23日(金) 大阪
→ 3月8日(日)

あべのハルカス美術館

高野山開創1200年記念
大法会
<http://www.koyasan.or.jp>

世界遺産
天空の聖地

狩場明神・丹生明神との
出会いと高野山開創

2つの聖地
壇上伽藍と奥之院

唐で密教を学び帰国した弘法大師空海は、弘仁7年(816)、時の嵯峨天皇に、
真言密教の根本道場として高野山の下賜を願い出て、勅許を得ました。
靈峰高野山の歴史は、ここから始まります。以来1200年、幾多の盛衰を経ながらも、
高野山は朝廷をはじめ貴族、武士、庶民とあらゆる階層の人々の信仰を集め、
仏教文化の発信地としてゆるぎない地位を保ち続けてきました。
祈りの聖地——高野山には、今もなお弘法大師の精神が生き続けています。

高野山は紀伊半島の中央部に位置し、標高1000m級の山々に囲まれた
天空の聖地です。周囲の8つの峯々を、古来より蓮の花びらに見立て、淨土の
象徴ともいえる蓮の花の中心に高野山
があるように見えることから、「八葉蓮華」と呼ばれています。

東西6km、南北3km、周囲15kmに及ぶ
標高約800mの平らかな盆地に、金剛
峯寺を中心として壇上伽藍や奥之院を
はじめ117の寺院や町家が立ち並び、
一大宗教都市を形成しています。
「一山境内地」称され、高野山の
至る所がお寺の境内地であり、高野山
全体がひとつの大きなお寺とされています。
平成16年(2004)には熊野三山などと
ともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として
ユネスコの世界遺産に登録されました。

重要文化財「丹生明神像・狩場明神像」
鎌倉時代 金剛峯寺蔵

高野山
開創1200年記念
大法会
<http://www.koyasan.or.jp>

東京

会場
サントリー美術館
〒107-8643
東京都港区赤坂9-7-4
東京ミッドタウンガレリア3階

会期
2014年10月11日(土)～12月7日(日)

休館日
火曜日

開館時間
午前10時～午後6時
金・土および10/12(日)、11/2(日)、
11/23(日)は午後8時まで

主催
サントリー美術館
高野山真言宗總本山金剛峯寺
公益財團法人高野山文化財保存会
読売新聞社

観覧料(予定)
一般 大学・高校生
当社 1,300円 1,000円
前売 1,100円 800円
(中学生以下無料)

お問い合わせ
TEL 03-3479-8600
[美術館ホームページ]
<http://suntory.jp/SMA>

サントリー美術館
SUNTORY MUSEUM OF ART



地下鉄をご利用の場合
●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅出口8より直結
●東京メトロ日比谷線「六本木」駅より地下通路にて直結
●東京メトロ千代田線「乃木坂」駅出口3より徒歩約3分

バスをご利用の場合
●都営バス(渋谷発)
都01「六本木駅前」下車徒歩約2分
●いちばす(赤坂ルート/田町ルート)
「六本木七丁目」「檜町公園」下車徒歩約1分

重要文化財「大日如来坐像」
平安時代 金剛峯寺蔵

あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM



近鉄「大阪阿部野橋」駅改札よりすぐ
JR「天王寺」駅中央改札よりすぐ
地下鉄御堂筋線「天王寺」駅西改札よりすぐ
地下鉄谷町線「天王寺」駅南改札よりすぐ
JR「天王寺駅前」駅よりすぐ
※あべのハルカス美術館へはハルカスシャトル(エレベーター)
【乗り口】1階をご利用ください。
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

弘仁7年(816)、弘法大師空海は密教修行の理想の場所として高野山の開創に着手しました。空海は命をかけて真言密教の基盤を作り、承和2年(835)、永遠に人々に救いの手を差し伸べるとの誓いを立ててこの地で入定されました。以来、高野山は時代や宗派を超えて、今なお篤い信仰を集めています。1200年の時の蓄積はまた、山上の地に「山の正倉院」とも例えられるわが国最大規模の仏教芸術の宝庫を形成しました。皇族や武家など時の権力者をはじめ全国各地から寄進された約5万点におよぶ品々は、信仰の歴史を映す鏡であり、かけがえのない文化遺産として、連続と受け継がれてきました。

本展は、平成27年に執り行われる「高野山開創1200年記念大法会」に先立ち、高野山の至宝約50件を展示し、その魅力をあますところなく披露するものです。空海の精神と壮大な歴史に育まれた日本の文化の精髄をご堪能ください。

[みどころ1] 密教美術の原点 —空海ゆかりの至宝

空海は、延暦23年(804)に唐の都・長安に渡り、密教の奥義を極めます。密教では、言葉では語りきれない深い教えを体得するために、絵画や彫刻などの造形を重視しました。そのため、高野山には豊麗な密教美術の原点ともいべき品々が1200年の時を経て今に伝えられています。若き日の直筆の書や、唐から持ち帰った密教の遺品など空海ゆかりの至宝の数々を紹介します。



国宝「鷲賛指帰」空海筆 平安時代 金剛峯寺蔵

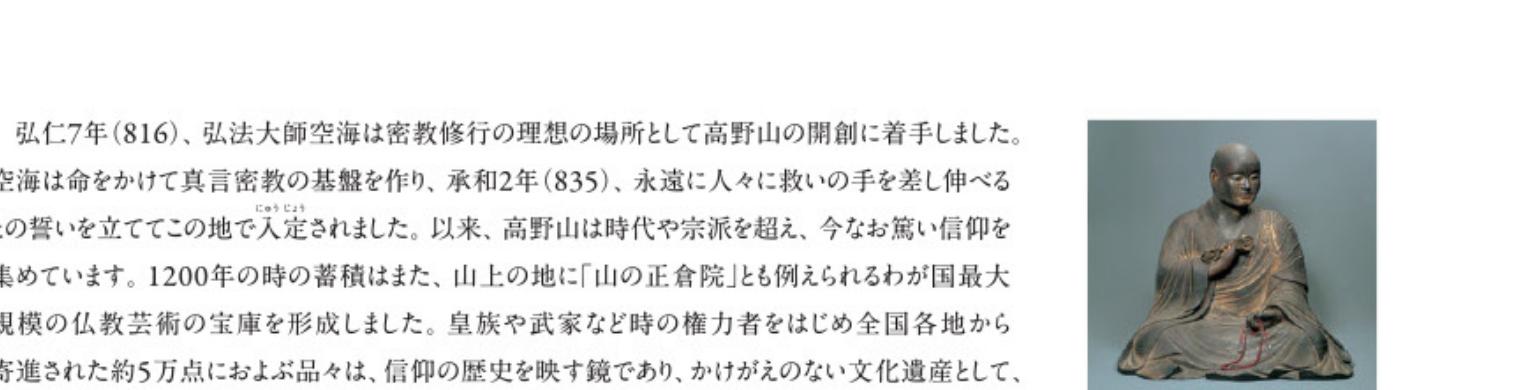
入唐前、人生の岐路に立った空海の姿を伝える青年期唯一の自筆本。延暦16年(797)に著述した「三教指帰」の草稿本と考えられる。同書は、大学を中退した空海が、出家の意思を親族に示す、優れた造形感覚がうかがえる。

24歳の決意表明の書であった。戯曲の体裁を取り、儒教や道教に対する仏教の優越性を解く、若々しい奔放で闊達な筆致からは、空海の途方もない才氣と優れた造形感覚がうかがえる。



空海の足跡

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 774年(1歳) | 讃岐国多度郡(現在の香川県善通寺市)に生まれる |
| 791年(18歳) | 都(長岡京)に上り、大学に入学 |
| 797年(24歳) | 『三教指帰』(『聖賢指帰』)を著す |
| 804年(31歳) | 出家得度し、東大寺戒壇院で受戒 遣唐使留学僧として長安に入る |
| 805年(32歳) | 青龍寺の惠果に師事、伝法阿闍梨の灌頂を受ける |
| 806年(33歳) | 唐より帰国 |
| 816年(43歳) | 朝廷より高野山開創の勅許を得る |
| 817年(44歳) | 高野山で伽藍造営を始める |
| 823年(50歳) | 東寺を下廻される |
| 832年(59歳) | 高野山において万燈万華会を行う |
| 834年(61歳) | 宮中で真言法による修法を上奏し、勅許を得る(後七日御修法) |
| 835年(62歳) | 3月21日、高野山に入定 |
| 921年 | 弘法大師の謡号を授けられる |



「弘法大師坐像(萬日大師)」
室町～桃山時代 金剛峯寺蔵

『紀伊続風土記』によると、ある行者がこの大師像に30余年(約1万日)にわたって参詣を続けたところ、大師が現れ「萬日の功、眞実なり・」と言って東方を向いた。夢からさめて像を見ると首が左(東方)を向いていたという伝承により、「萬日大師」と呼ばれる。

[みどころ2] 山の運慶と快慶

仏像界に新風を吹き込んだ運慶と、仏像としての理想美を追求した快慶。我が国の仏師の双璧と称される彼らの仏像がともに伝わることは、高野山が鎌倉時代にもなお篤い信仰を集めていたことを物語っています。その造像は、二人が共に仏師として円熟して行く頃のものであり、いずれも彼らの代表作例となるものです。伝統の上に自らの新様式を築いた彼らの作例は、日本彫刻史の精華として位置づけられ、本展は山上に集うそれらの魅力を一挙に鑑賞できる貴重な機会となります。

運慶



記される由緒深いもの。香木(白檀材)を縦に三分割し、蝶番でつながれる。空海は、多くの經典や文物を日本に持て帰った。その内容は、佛國後朝廷に提出された「御請來目録」に記載されている。なかでも本品は、密教の第五祖の印度僧金剛智が中国に伝え、不空、惠果を経て空海に伝わった「密教正系の證」といわれるものを集める項目に

八軀のうち当初にさかのぼる六軀は運慶の作と認められる。運慶の現存作例中では最多の群像表現である。充実した体躯と各部位が連動したプロポーションに加え、玉眼を効果的に使用した表情

など、実際の童子を見るようである。不動明王の眷属としての性格を超え、童子の彫刻としても非常に優れた像といえるだろう。像表面の彩色も良く残り、眉や頭髪の後れ毛の表現は像に迫真性を

与えている。関東、関西で八軀そろっての公開は、約10年ぶりとなる。
(左から) 指徳童子、恵光童子、矜羯羅童子、制多伽童子、烏俱婆訥童子、清淨比丘童子、恵喜童子、阿禍達童子



重要文化財「孔雀明王像」
快慶作 鎌倉時代 金剛峯寺蔵

広目天に快慶の銘があることから、快慶とその工房の作と考えられる。特に快慶の直接の手による広目天は、陥い忿怒の表情を見事にあらわし、腰を左にひねって立つ体勢のバランスの良さや、衣文表現の巧みさは四軀中でも際立っている。平氏による南都焼討のち再興された東大寺大殿四天王像は、慶派による

重要文化財「孔雀明王像」

快慶作 鎌倉時代 金剛峯寺蔵

孔雀明王は、毒蛇を喰う孔雀から諸苦を祓う仏として信仰された。本像は高野山の孔雀堂を建立した正治2年(1200)に、快慶によって造立されたもの。高い髻と鋭くはっきりした眼つきが特徴的で、頭髪の人念な毛筋彫りや、腰を絞った引き締めのある体躯に四本の腕をバランスよく配するところなど、卓越した彫技が發揮されている。明王を乗せる孔雀や台座の一部に、当初の材が残ることも貴重である。

快慶